

## 底質改良水域における効果調査

岡村貴司・森田 尚

### ◆背景・目的

- 赤野井湾の漁場環境改善のため、平成4年から平成10年にかけて浚渫と覆砂が行われており、本調査は効果調査および覆砂区の維持状況を把握するため継続実施している。

### ◆成果の内容・特徴

- 覆砂区への泥の堆積は、11月調査では昨年同様に平成6年覆砂区の岸側および平成8年覆砂区の岸側（法竜川河口付近）で、他地点よりも多く確認された（11月、図1）。9月調査では平成6年覆砂区および平成10年覆砂区で他地点よりも多くの堆積泥が確認されたことから、同年の覆砂区内で部分的に堆積状況が変化していると考えられる。
- 水草については調査地点によって出現種が異なっているが（図2）、湾全体へ水草が増加傾向にあり、平成6,8,10年覆砂区では2005年以降の調査で水草が最も多くなった。
- 7月の魚類調査では覆砂区（平成7年覆砂区）より無覆砂区において在来魚および外来魚が多くみられた（個体数）。逆に、11月調査では無覆砂区より覆砂区（平成7年覆砂区）において在来魚および外来魚が多くみられた（個体数）。

### ◆成果の活用・留意点

- 覆砂区において泥の堆積や水草の繁茂が確認されていることから、湾内へ流入する泥や栄養塩負荷を削減するとともに、耕耘などの対策を行っていく必要がある。

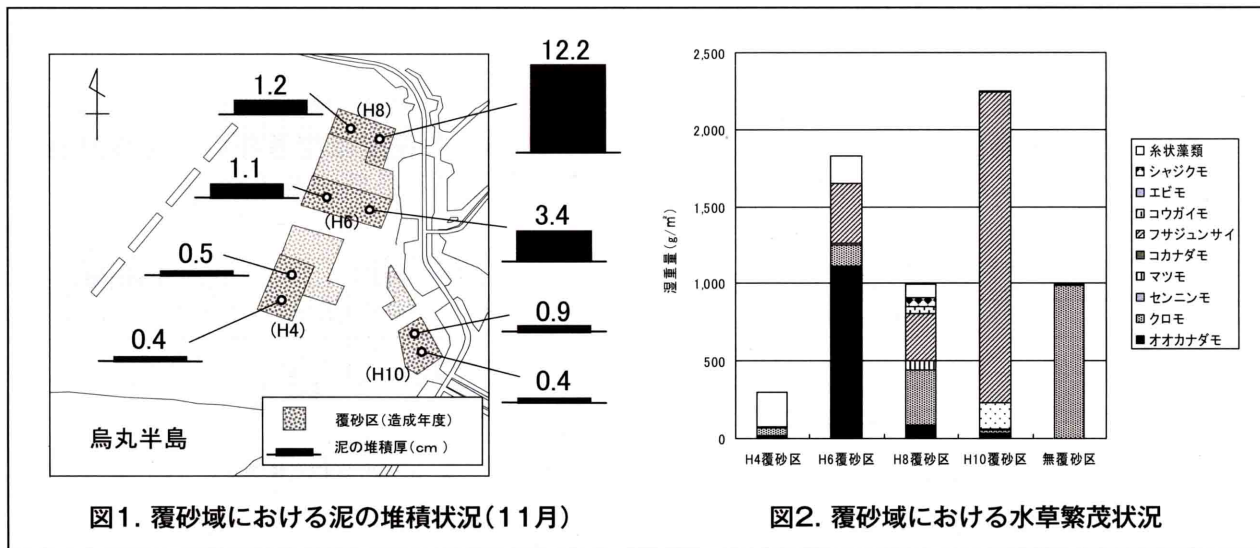


図1. 覆砂域における泥の堆積状況(11月)

図2. 覆砂域における水草繁茂状況